

<病理診断科>

GIO (general instructional objective)

診断病理学を学ぶことにより、臨床における病理の役割を確認すると同時に、自ら興味のある領域を中心に疾患・病態の理解を深める。

SBOs (specific behavioral objectives)

- (1) 基本姿勢
 - ・病理診断を自ら経験することにより、臨床医として必要な診断病理学の基礎知識・技能・態度を身につける。
- (2) 検査・手技
 - ・術中迅速・手術検体の標本作製(切出)と鏡検・病理解剖などを通して病理診断に必要な技術を習得する。
- (3) 病理診断
 - ・切出した病理組織標本について上級医の指導のもとで診断報告書を作成する。
 - ・院内カンファレンスにおいて病理側担当として症例提示を行い、病理所見を説明する。

LS1 (learning strategy 1) On the job training

- (1) まず自ら興味のある領域を手始めに、正常な組織像を学び直す。
- (2) 臨床医として担当した患者の既往生検手術標本を自ら検鏡して顕微鏡に馴染む。
- (3) 術中迅速診断を上級医の指導のもとに自ら行い、良悪性判定や限界について学ぶ。
- (4) 手術検体の適切な取扱い、固定と切出を上級医の指導のもとで行う。
- (5) 切出・診断に際して病理診断に必要な臨床情報を把握し、病理と臨床の連携の重要性を学ぶ。
- (6) 生検・手術検体の病理診断報告書を上級医の指導のもとで自ら作成する。
- (7) 病理診断に必要な免疫組織化学や分子病理学的検索を行い、その結果を評価する。
- (8) 病理解剖に上級医とともに立ち会い、肉眼所見を記録する。
- (9) 病理業務におけるリスク管理・コンサルテーションの重要性を学ぶ。

LS2 (learning strategy 2) 勉強会・カンファランス・学会など

- (1) 適切な剖検症例（研修中に自ら担当した症例や興味のある臨床科の症例など）を1例選択し、自ら検鏡して臨床的相関と考察を加えてCPCレポートを作成する。
- (2) 剖検症例検討会 (PMC) や院内カンファレンスで病理側担当として症例提示を行い、病理所見を説明する。
- (3) 学会・研修会・セミナーに積極的に参加する。

週間予定

	午前	午後	カンファレンス
月曜日	迅速診断・手術検体切出・報告書 作成・剖検		
火曜日			皮膚科(月1回)
水曜日			消化管(月1回)・乳腺(月1回)・呼吸器(月3回)
木曜日			腎生検(月1回)・肝胆膵(月1回)
金曜日			PMC (月1回)

EV 評価

EPOC による評価方法 (研修医 \longleftrightarrow 指導医)

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、EPOC 評価システムに入力をする